



医療法人 厚生堂

長崎病院

広報誌

2026.1

vol.

144

むつみ

当院の理念

私たちは良質で安心な医療の提供により、患者様や家族の皆様との信頼を築き、常に「思いやりの医療」を念頭に、地域社会に貢献します。

目次

40歳を過ぎたら、目の検診を受けましょう……1
“つなぐ”おしごと、地域連携室です!……………2

やけどをしたらどうする?~最新の手当て~…3
お知らせ……………4



新年あけましておめでとうございます。
本年が皆様にとって平穏な年となりますことを祈念いたします。
また 長崎病院は皆様の健康にお役に立てるよう努力してまいります。



理事長 長崎 孝太郎

40歳を過ぎたら、目の検診を受けましょう

— 緑内障の早期発見のために —

医師 松本 康子

1、緑内障とは

緑内障は、視神経が障害され視野が欠けてくる病気です。人は両眼で物を見るため、片眼の視野が欠けても補いあって気づかないことが多いのですが、40歳以上の20人に1人、60歳以上では10人に1人にみられ、決して珍しい病気ではありません。放置すると失明につながり、日本の失明原因の一位となっています。しかし早期に発見して適切な治療を続ければ、生涯視野と視力を保てる病気です。

2、緑内障の種類

緑内障には、小児の緑内障(生まれつき、発達緑内障など)、続発緑内障(手術後、外傷、糖尿病、ステロイド点眼の副作用など)、原発緑内障があり、原発緑内障は閉塞隅角緑内障(眼球内の房水の出口である隅角が閉塞するためにおこる)と開放隅角緑内障とに分類されます。

一般に多いのは開放隅角緑内障です。病気がかなり進行するまで自覚症状がほとんどないため、目の検診によって早期発見、早期治療が大切とされるのはこの開放隅角緑内障で、今回はこの開放隅角緑内障についてご説明します。

3、緑内障の原因

緑内障で視神経が障害される原因は、はっきりわかっていません。高眼圧が原因になることはわかっていますが、眼圧の正常値とされる10-21mmHgの基準内で眼圧が高くない人にも緑内障が少なくないことから、眼圧以外にも、視神経が弱い、血流が少ないなど原因があると考えられてい

ます。強度近視では眼球が前後に長くなって網膜が引き伸ばされた状態になっており、視神経が障害されやすいです。家族に緑内障の方がいる人も緑内障になりやすいと言われています。

4、緑内障の治療

傷んだ視神経は元に戻すことはできず、欠けた視野を広げることにはできません。ですから、繰り返しになりますが、できるだけ早期に発見して進行を食い止めることが大切です。

治療法は、現在、眼圧を下げることしかありません。眼圧が正常範囲にある人も、その人にとって適正な眼圧はもっと低いという考え方で、眼圧を下げる治療をします。

いろいろな種類の点眼薬がありますので、その人に合った点眼薬を1剤、もしくは2-3剤を併用して眼圧を下げます。点眼を続けても緑内障が進行するようなら、レーザー治療や手術を考えることになります。

ここで大事なことは、通院を継続することです。日常生活を特に変える必要はありませんが、自覚症状があまりないので、通院を止める場合があるのが心配です。

5、緑内障の検査

緑内障は普通の視力検査では見つかりません。眼圧、眼底検査、視野検査、その他専門医ではさらに詳しい検査を行います。



40歳を過ぎたら、一度眼科で検査を受けましょう。特に、近視の強い人、家族に緑内障の方がいる人は、眼科での定期的なチェックをお勧めします。